

特別支援学校に勤務する教職員として、障がい者社会モデルでとらえるとともに、児童生徒の特性を理解し、適切な支援を行い、児童生徒、保護者及び関係者からの信頼に応えられるよう、人権を重んじた真摯な態度で教育活動に臨みます。

1 はじめに

教職員の資質向上とコンプライアンスの推進が言われ続けているにも関わらず、教職員の不祥事により、県民の信頼を損ねる事案が相次いでいます。本校においては、「学校信頼向上委員会」においてこれまでの取組を検証し、教職員一人ひとりがより主体的に本計画を理解・実践できるよう「信頼される学校であるための行動計画」を改訂し、不祥事の根絶と信頼向上に取り組んでいきます。

2 本校の現状と課題

本校は知的障がい教育特別支援学校で、教職員の年齢構成はベテラン層の教職員の割合が増加しており、知識と経験を若年層の教職員へと伝承していく必要があります。また、定数内未配置の状況があり、非常勤講師の配置で対応をしています。児童生徒の障がいの多様化や在籍数の増加、非常勤教員の比率の高まりから、分掌業務の割り振りなど、教職員の業務量は大きくなっています。

こうした状況を踏まえ、教職員がお互いを尊重しながら、心身ともに健康で前向きに業務に取り組める学校運営の在り方を常に検証・改善しながら、規範意識の確立を推進していかなくてはなりません。

3 具体的な行動計画

(1) 教職員の規範意識の確立

- ① 各自の自己目標設定において、コンプライアンスを意識した項目について記載し、5月・1月の管理職との面談時に確認します。
- ② 7月・12月をコンプライアンス向上月間と位置づけ以下の取組を行います。
 - i 児童生徒、保護者対象のアンケート等を実施し、不適切な指導について確認します。
 - ii 教職員一人ひとりが自らの行動を確認するため、「子どもの人権を大切にするための自己チェック」及び「個人情報を含む文書類やデータ等の管理に関する自己チェック」を実施します。
 - iii 全教職員が各自のコンプライアンスに係る行動目標を設定し、掲示・自己評価に取り組みます。
- ③ 各職種に応じたコンプライアンス研修やコンプライアンスミーティング、人権研修等とともに、特別支援教育の専門性向上を目指した研修を系統的に実施します。
- ④ 毎月第2週をコンプライアンス週間と位置づけ、コンプライアンスチェックを実施します。

- ⑤ 児童生徒の事故やヒヤリハット事例を積極的に共有し、再発防止に向けてフィードバックを行います。
- ⑥ ホームページ、授業公開、報道提供等を実施し学校の取組を可視化するとともに、外部からの意見を聴取します。
- (2) 教職員が心身ともに健康で生き生きと業務に取り組める職場づくり
- ① 一人で課題を抱えてしまうことで、報告や判断が遅れることがないよう積極的な情報発信・情報共有を進め、速やかに組織的な判断・対応ができる職場づくりを進めます。
- ② 課題や環境の変化に応じた業務の削減・精選を行うとともに、ＩＣＴ機器の効果的な活用を進め、業務軽減と教育効果の充実につなげます。
- ③ 学校安全衛生委員会の取組を中心として、教職員の心身の健康状況の把握し悪化を防ぎます。

4 令和7年度信頼される学校であるための行動計画に係る年間スケジュール

4	事務職員コンプライアンス研修 コンプライアンスに関する自己目標設定	10	人権研修 第4回学校信頼向上委員会
5	教職員人権全体研修オリエンテーション 第1回学校信頼向上委員会 教員コンプライアンス研修 管理職面談	11	第2回学校関係者評価委員会
6	第1回学校関係者評価委員会 第1回人権教育推進協議会 第2回学校信頼向上委員会	12	ヒヤリハット事例等フィードバック 児童生徒・保護者対象アンケート 教職員自己チェック コンプライアンス自己目標設定・評価
7	ヒヤリハット事例等フィードバック 児童生徒・保護者対象アンケート 教職員自己チェック コンプライアンス自己目標設定・評価	1	コンプライアンスミーティング・人権研修② 第5回学校信頼向上委員会 管理職面談
8	コンプライアンスミーティング・人権研修①	2	第3回学校関係者評価委員会 第2回人権教育推進協議会 児童生徒アンケート
9	第3回学校信頼向上委員会	3	第6回学校信頼向上委員会 ヒヤリハット事例等フィードバック
通年	特別支援教育の専門性向上を目指した研修 コンプライアンス週間（毎月第2週）におけるコンプライアンスチェックの実施 ホームページや公開授業、報道提供等による学校の取組の可視化 積極的な情報発信・情報共有と組織的な判断・対応 業務の削減・精選及び業務軽減と教育効果の充実につながるＩＣＴ機器の活用 教職員の心身の健康状況の把握		

